

## 芸術科（音楽） 学習指導案例

### 1 題材名 「和楽器の体験と伝統音楽の特徴」

・教材名 「こきりこ」「島唄」「さくら さくら」

### 2 題材の目標

篠笛、三線、箏の演奏や楽曲の鑑賞を通して、それぞれの楽器の表現方法や日本の代表的な音階（民謡音階、沖縄音階、都節音階）を理解するとともに、我が国の伝統音楽に親しみをもつことができる。

### 3 題材の評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 芸術的な感受や表現の工夫	ウ 創造的な表現の技能	エ 鑑賞の能力
歌唱	・	・	・	・
器楽				・
創作	・	・	・	・
鑑賞	・	・	・	
内容ごとのと評ま価り規準	<b>【器楽】</b> ・いろいろな楽器の特質や奏法、視奏、曲の構成及び曲想に関心をもち、意欲的、主体的に器楽表現し、その喜びを味わおうとする。	<b>【器楽】</b> ・音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	<b>【器楽】</b> ・楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に器楽表現するための技能を身に付けている。	<b>【鑑賞】</b> ・声や楽器の特性と表現上の効果、楽の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を理解して、楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わっている。
題材の評価規準	・和楽器（篠笛、三線、箏）の固有な表現方法や美しさに関心をもち、意欲的に器楽表現している。	・和楽器（篠笛、三線、箏）の体験を通し、固有の表現方法や美しさを感じ取って器楽表現を工夫している。	・和楽器（篠笛、三線、箏）の体験を通し、固有の表現方法で美しく器楽表現する技能を身に付けている。	・音階や楽器の奏法を理解し、篠笛曲や箏曲等の楽曲全体を聴き取っている。

4 題材指導計画（9時間）

時	ねらい	主な学習活動	評価規準と評価方法	指導・援助
1	篠笛を、口形や息の強さを工夫し、伝統的な楽譜を見ながら吹くことができる。	篠笛の音の出し方を学ぶ。  篠笛の楽譜の読み方を知り、正しい指遣いで吹くことを学ぶ。	篠笛の基本的な奏法を身に付けている。(ウ) 観察・聴取 ・ 呂（低音域）の音と甲音（高音域）が吹き分けられているか聴いて確認する。 ・ 「二三四五六七〇」の運指が正確にできているか観察する。 ・ 右手の人差し指・中指・薬指が第一と第二関節の間で穴をふさいでいるか確認する。	口を横に引いた状態で、息の強さを変えたり、唄口の角度を変えて息のあたるポイントを見つけるよう助言する。 右手の人差し指・中指・薬指の第一と第二関節の間で穴をふさいで演奏するよう指導する。
2	篠笛で「こきりこ」を演奏したり歌詞の意味や歴史的背景を学んだりすることを通して、興味をもって楽曲全体を聴き取ることができる。	篠笛で「こきりこ」を演奏する。  「こきりこ」を鑑賞する。	「こきりこ」の歌詞の意味や歴史的背景をふまえ、楽曲全体を聴き取っている。(エ) 発言 ・ VTRを見た感想の発言から評価する。	お囃子の部分から先に取り組み、興味を持たせてから次に進む。 甲音が出ず、吹くことをあきらめてしまう生徒がいたら、1オクターブ下の呂の音域で吹くよう助言する。  五箇山のこと、「こきりこ」の歌詞の意味、田楽について説明する。
3	「こきりこ」の音階や篠笛の演奏を通して民謡について理解し、「こきりこ」にふさわしい演奏表現を工夫することができる。	「こきりこ」に使われている音から民謡音階を組み立て、篠笛で音階を吹く。  前時のVTRの「こきりこ」の演奏を念頭に置き、篠笛・ささら・太鼓で演奏表現する。	民謡音階の特徴を感じ取っている。(イ) 挙手 ・ 民謡音階の特徴を感じ取ることができたか、挙手で確認する。  篠笛、ささら、太鼓で、「こきりこ」にふさわしい演奏表現を工夫している。(イ) 観察 ・ お互いの音をよく聴いて演奏しようとしているか観察する。	篠笛で「三、五、六、七、2、3」と何回も吹き、民謡音階の特徴をつかませる。  太鼓やささらのリズムをオリジナルのリズムに近い形で演奏するよう指導する。

時	ねらい	主な学習活動	評価規準と評価方法	指導・援助
4	三線の伝統的な楽譜(工工四)を見ながら、意欲的に三線を演奏することができる。	<p>三線の伝統的な楽譜(工工四)の読み方を学ぶ。</p> <p>左手のポジションを覚え、正確に押さえる。</p> <p>三線で「ていんさぐぬ花」と「島唄」の前半部分を演奏する。</p>	<p>三線の伝統的な楽譜(工工四)を見ながら表現する技能を身に付けている。(ウ)</p> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三線の楽譜を見ながら、スムーズに左手が動いているか観察する。</li> </ul> <p>三線の伝統的な楽譜(工工四)を見ながら意欲的に「ていんさぐぬ花」や「島唄」を演奏している。(ア)</p> <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の流れからずれないように演奏しようとしているか観察する。</li> </ul>	<p>「合、乙、老、四上、中、尺、工」と唱えながら指導する。</p> <p>左手のポジションを覚えるまで何度も繰り返す。</p> <p>「中、中、尺、中、上、四、老、四、工...」とメロディーを唱えながら進める。</p>
5	<b>省略(本時の展開参照)</b>			
6	「ていんさぐぬ花」,「島唄」を通して沖縄音階の特徴を理解し、曲の山などの表現を工夫することができる。	<p>「ていんさぐぬ花」,「島唄」に使われている音から沖縄音階を組み立て、三線で音階を弾く。</p> <p>「ていんさぐぬ花」,「島唄」を演奏する。</p>	<p>沖縄音階の特徴を感じ取っている。(イ)</p> <p>挙手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄音階の特徴を感じ取ることができたか、挙手で確認する。</li> </ul> <p>「ていんさぐぬ花」と、「島唄」にふさわしい表現を工夫している。(イ)</p> <p>聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の山場を意識し、流れよく演奏表現しようとしているか聴取する。</li> </ul>	<p>三線で「四、中、尺、工、六、七」と何回も弾き、沖縄音階の特徴をつかませる。</p>

時	ねらい	主な学習活動	評価規準と評価方法	指導・援助
7	<p>箏の伝統的な楽譜の読み方を理解するとともに、親指で平調子の音を正確に鳴らす技能を身に付け、「さくらさくら」の冒頭の部分を演奏することができる。</p>	<p>箏の伝統的な楽譜の読み方を学び、箏の弦の位置と音を確認しながら正確に親指で弾く。</p> <p>「さくらさくら」の冒頭の部分を演奏する。</p>	<p>箏の伝統的な楽譜を見ながら表現する技能を身につけている。(ウ)</p> <p>観察</p> <p>・箏の楽譜を見ながら、親指で丁寧に演奏できているか確認する。</p>	<p>「一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、斗、為、巾」と唱えながら何回も繰り返して、弾く位置を覚えるよう指導する。</p> <p>「七、七、八…」と唱えながら指導する。</p>
8	<p>箏で「さくらさくら」を演奏したり演奏を鑑賞したりすることを通して、箏の歴史、奏法、楽器の特徴について関心を持ち理解することができる。</p>	<p>箏で「さくらさくら」を演奏する。</p> <p>VTRを見ながら、箏の歴史、奏法、楽器の特徴について学ぶ。</p>	<p>箏の歴史や奏法、音色に関心をもっている。(ア)</p> <p>観察、学習プリント</p> <p>・意欲的にVTRを観たり、学習プリントに書き込んでいるか観察する。</p>	<p>「七、七、八…」と唱えながら繰り返し練習するよう助言する。</p> <p>箏の演奏法については、具体的に実践しながら理解させる。また、歴史学習では八橋検校について詳しく説明する。</p>
9	<p>箏曲「六段」を、都節音階の特徴や速度の変化などを感じ取って、楽曲全体を聴き取ることができる。</p>	<p>「さくら さくら」に使われている音から都節音階を組み立て、箏で音階を弾く。</p> <p>箏曲「六段」の初段・三段・六段をVTRで鑑賞する。</p>	<p>都節音階の特徴を感じ取っている。(イ)</p> <p>挙手</p> <p>・都節音階の特徴を感じ取ることができたか、挙手で確認する。</p> <p>「六段」を鑑賞して楽曲全体を聴き取っている。(エ)</p> <p>発言</p> <p>・VTRを見た感想の発言から評価する。</p>	<p>平調子が都節音階できていることを気づかせる。</p> <p>初段、三段、六段を聴き比べてテンポが速くなることを気づかせる。</p>

5 本時のねらい

「島唄」を、三線の伝統的な楽譜（工工四）を見ながら、「七八七」などの指遣いに気を付けて、意欲的に演奏することができる。

6 本時の展開（5 / 9） \*三線の代わりにカンカラ三線を一人一台用意する。

学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
<p>篠笛による楽曲演奏をする。（前時までの復習）</p> <p>三線の楽譜（工工四）を見ながら左手のポジションを正確に押さえて弾く。</p> <p>インターネットで「ていんさぐぬ花」を鑑賞する。</p> <p>三線で「ていんさぐぬ花」を演奏する。</p> <p>三線で「島唄」の前半部分の演奏をする。</p> <p>「島唄」のさびの部分の工工四を書く。</p> <p>工工四を見ながら「島唄」のさびの部分の練習をする。</p> <p>全員で「島唄」のメロディーを演奏する。</p>	<p>三線の伝統的な楽譜（工工四）を見ながら、左手のポジションを正しく押さえて演奏している。（ウ）</p>	<p>観察 ・左手のポジションを確実に押さえることができるか観察する。</p>	<p>「合、乙、老、四、上、中、尺、工」と唱えながらひとつひとつ確実に押さえるよう指導する。</p> <p>レーザーポインターで楽譜の位置を示す。</p> <p>「中、中、尺、中、上、四、老、四、工...」と範唱してスムーズにメロディーを流れるようにする。</p> <p>三線の楽譜について理解を深められるように、自分で書いて覚えるよう助言する。</p> <p>小指を移動する「七、八、七」のポジションを、唱歌を歌いながら繰り返し練習する。</p>

## 三線の源流 ~中国から沖縄へ~

三線（さんしん）とは、14世紀末から15世紀にかけて中国から持ち込まれた楽器（三弦）をもとにこれを改良して作られた楽器である。そして16世紀半ばに本土に持ち込まれ、三味線へと姿を変えていくのである。

三線の胴皮は沖縄に棲むハブの皮ではない。ハブは体の直径が2～3cmしかない小さな蛇だから、三線の胴に張るような大きな皮を得るのは不可能だ。三線の胴を張るには、模様がきれいで幅、30～40cmくらいの皮が取れる蛇が必要だがそんな大きなヘビは沖縄にはいない。

沖縄で昔から使われているヘビの皮は、中国南部や東南アジアに棲息する大型のニシキヘビである。現在はタイから皮を輸入している。

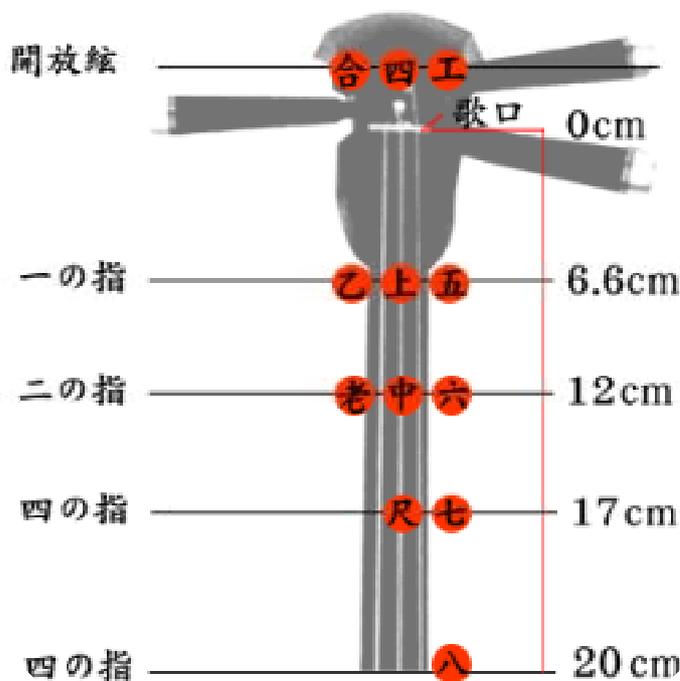
## 工工四（くんくんしー）

沖縄の三線の楽譜が工工四である。

中国の記譜法である工尺譜（こうしゃくふ）をもとに沖縄風に改良して作られた。現存する最古の工工四は18世紀のものとされている。

弦を押さえる位置（勸所）を工・老・四・上...などの文字記号で示す。

## 工工四のポジション



四	フ	中	チ	四	中	てい ん さ ぐ ぬ 花
合		中	ト	合	中	
老		五	ト	老	尺	
四	ト	六	ト	四	上	
工	ナ	〇	ニ	工	上	
中	ナ	七	ス	中	四	
中	ハ	〇	ニ	中	合	
五	ハ	六	ニ	五	老	
尺	ス	六	ニ	尺	四	
中	ス	七	チ	中	上	
上	ニ	七	チ	上	工	
四	リ	中	ウ	四	ハ	
合		中	ナ	合	中	
老		尺	ナ	老	五	
四		上	レ	四	尺	
工		上	レ	工	上	



# 島唄

宮沢和史

三線

台 老 四 中 尺 工 六 七 工 六 七 尺 尺 中 尺

3

上 四 老 上 四 台 老 四 中 尺 工 六 七

9

工 六 七 尺 尺 中 尺 上 四 老 上 四 台 老

12

四 四 中 尺 工 六 七 工 六 七 尺 尺 中 尺 上 四 老 上

15

四 四 四 乙 中 工 中 中 上 四 四 乙 台 乙 四 上

18

中 中 工 五 上 中 上 四 四 上 中 上 工 六

